

平成29年度西春日井福祉会本部事業報告書

1 法人運営に関する会議の開催

- (1) 理事会 7回（開催6回、書面決議1回）
理事長の選出、管理者の選任、事業計画及び事業報告、予算及び決算報告、規則規程の改正、補正予算、施設整備及び契約に関する事項等
- (2) 評議員会 4回（定時開催1回、臨時開催2回、書面決議1回）
定款の改正、役員を選任、事業計画及び事業報告、予算及び決算報告、事業状況報告
- (3) 指名審査委員会 3回（施設整備及び契約の仕様書、契約方法、業者選定に関する事項）
- (4) 施設長会議
 - ① 定例会 12回（月次状況確認、法人統一事項確認、事業運営における情報共有）
 - ② 検討会 11回（人材確保策、感染症対策、規則規程の改正等）
- (5) 法人運営の適正に向けた会議の開催
 - ① 運営適正化委員会（各業務内容の適正化、職種別役割分担の明確化等）
 - ② 法人の会議・委員会（出納職員会議、労務担当者会議、衛生委員会、支援長会議、介護長会議、看護長会議、生活相談員会議、デイ会議、施設ケアマネ会議、機能訓練指導員会議、給食検討委員会、機関誌製作会議、人材確保プロジェクト実行委員会、ロボット活用検討委員会）

2 職員の雇用状況

- (1) 職員総数 653名（正規377名、嘱託49名、パート227名）
- (2) 採用 82名（正規40名、嘱託7名、パート35名）
 - ① 募集活動（問い合わせ数294名、施設見学者94名、正規職員受験者47名）
 - ② 募集方法（学校201校、紹介所4箇所、就職フェア21回、ホームページ、インターネット求人等）
- (3) 退職 61名（正規29名、嘱託4名、パート28名）

3 人事異動

- (1) 昇任等 44名（課長補佐級1名、係長級10名、主任等任命33名）
- (2) その他 83名（身分換15名、配置換45名、職種換等19名、育休復帰4名）

4 職員処遇の充実

- (1) 昇給等 343名（正規284名、嘱託10名、パート49名）
- (2) 職員表彰 40名（永年勤続20年1名、10年39名）
- (3) 25周年祝金 646名（全職員対象）
- (4) 福利厚生 13種（リフレッシュ事業、自己啓発事業、健康増進に係る事業、職員給与積立事業、団体保険事業、職員親睦旅行、職員家族参観日等）

5 法人としての職員育成

- (1) 一般職員研修 延7回108名（全職員対象とするメンタルケア研修等）
- (2) 階層別研修 延32回477名（新人職員、チューター職員、リーダー職員、役職者、管理者）
- (3) 専門職員研修 延46回496名（専門的スキルを学ぶ導入研修や職種別研修等）

6 組織統治及び内部統制の充実

- (1) 理事長報告会の実施
 - ① 事業実績報告 2回（5日間）上半期の事業及び収支報告、事業及び決算報告
 - ② 事業計画予算説明会1回（2日間）事業計画及び予算説明
- (2) 監事による監査及び検査の実施
 - ① 現金出納監査 6回（偶数月）現金預金の変動及び残高、利用者預り金の高額取引確認
 - ② 決算監査 1回（2日間）事業報告及び決算報告
 - ③ 中間監査 1回（2日間）上半期の事業及び収支報告
 - ④ 定期監査 1回（2日間）職員給与の執行状況について
- (3) 会計監査人による監査の実施
月例監査 9回（7月から毎月実施）

平成29年度特別養護老人ホーム五条の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 79.2名 | （前年度 79.1名） |
| (2) 稼働率 | 98.9% | （前年度 98.9%） |
| (3) 平均介護度 | 3.89 | （前年度 3.83） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 86回 | （西春吹奏楽団演奏、夏祭り、節分豆まき等） |
| (2) 外出支援 | 30回 | （アクア・トト岐阜、はるひ美術館、大須観音等） |
| (3) 食事関係 | 42回 | （バイキング、ゴールドランチ等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 52回 | 延べ人数80名 |
| (2) 内部研修 | 33回 | （施設サービス計画、上半期報告会、看取り介護等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 148回 | （業務改善会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ケアプランの役割を理解して、各フロアにて入所者のケアプランが適宜確認できる体制を整えたことにより、入所者のケア記録及びモニタリングの充実を図ることができました。また、看取り介護になった入所者の家族に、バイキングやショッピングなどの行事で深いかかわりが持てるようにアプローチするとともに、家族から最後の時を看取りたいとの希望にて宿泊等を希望された時に対応できる『看取り専用室』の整備を行いました。
- (2) 入所者の心身機能に合わせた個別機能訓練を実施するため、下半期には機能訓練計画書をはじめとした書式を見直したことにより、多職種間の情報が共有でき、機能訓練の成果が評価につなげられるようにプロセスの強化を図りました。
- (3) 感染症の発生予防のために、日頃から感染症対策に関する啓発活動を行うとともに、定期的に感染症研修を開催しました。また、必要時には緊急会議及び実技演習会を開催した取組の成果もあり、入所者のインフルエンザ等の感染症の発症はありませんでした。
- (4) 外部研修の充実を図るため、各研修機関からの案内を通達して希望者を参加させ、定期的に研修参加者が研修報告会の講師となって、施設内職員にアウトプットができました。
- (5) ミールラウンドを実施したことによって、多職種が一丸となって対象利用者の食形態や食事時の姿勢等に関することを検討することにより、個々の入所者に合わせた栄養マネジメント計画の作成することができました。
- (6) 外出行事のショッピングでは入所者の希望に合わせた物を購入してもらい、喫茶外出では喫茶を楽しみながら昔話に花を咲かせる等、有意義な時間とすることができ、特に大須観音への外出支援では、家族参加もあって家族との絆を深めることができました。
- (7) 医療機関と密な連携を図ったことにより、長期入院者を迅速かつ一時的に退所の運びとしながら再入所の支援を行いました。また、退所から入所までの空床期間を0日として目標よりも高い稼働率を達成することができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域に根差した施設として、ボランティアの受け入れを積極的に行うことで、入所者の生活の中での楽しみの一つとなり、また、各種行事では、地域住民の参加によって交流を図ることができました。
- (2) 地域の福祉教育に貢献するため、小中学生から社会人まで数多くの実習生を積極的に受け入れました。
- (3) 施設の様々な活動及び入所者の生活の様子をフェイスブック等で情報発信することにより、地域の方々に向けて施設への理解を深めていただくことができました。
- (4) 虐待等による緊急保護者の受入体制を拡充するため、2階の倉庫を居室となるよう整備しました。

平成29年度五条の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 20.5名（前年度 19.8名）
- (2) 稼働率 102.7%（前年度 99.1%）
- (3) 平均介護度 2.89（前年度 2.99）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 86回（西春吹奏楽団演奏、夏祭り、節分会豆まき等）
- (2) 食事関係 42回（バイキング、ゴールデンランチ等）
- (3) 虐待等による緊急保護 5ケース（7名）（前年度 2ケース《2名》）

3 職員研修

- (1) 外部研修 52回 延べ人数80名
- (2) 内部研修 33回（施設サービス計画、上半期報告会、看取り介護等）
- (3) 各種会議・委員会 148回（業務改善会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の希望に沿ったサービスを提供するため、居宅介護支援事業所と常に連携を図りながらサービス提供をすることで、継続した利用につなげることができました。また、新規利用者に対しては、多職種との連携によりサービス担当者会議での確かな情報収集を行い、充実したサービス提供ができました。
- (2) 利用者に合わせた日常生活の動作訓練を実施し、残存機能の維持につなげることができました。また、リハビリを目的とした散歩にも積極的に参加していただき、在宅でも継続して生活ができるように努めました。
- (3) 感染症の発生予防のために、日頃から感染症対策に関する啓発活動を行うとともに、定期的に感染症研修を開催しました。また、必要時には緊急会議及び実技演習会を開催した取組の成果もあり、利用者のインフルエンザ等の感染症の発症はありませんでした。
- (4) 外部研修の充実を図るため、各研修機関からの案内を通達して希望者を参加させ、定期的に研修参加者が研修報告会の講師となって、施設内職員にアウトプットができました。
- (5) 食を五感で味わってもらうため、春にはふきのとうやつくし、秋には秋刀魚や松茸等、季節毎の食材をメインにした魅力あるバイキングを提供するよう努めました。
- (6) 保育園児による演奏会や中学生によって発表された天神太鼓等の行事では、いつもと違った雰囲気を楽しみながら充実した時間を過ごしてもらうことができました。
- (7) 居宅介護支援事業所や医療機関と連携及び調整を図り、利用者又は家族の希望に沿ったサービス提供を実施できたため、目標稼働率・介護度を達成することができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域に根差した施設として、ボランティアの受け入れを積極的に行うことで、利用者の中の楽しみの一つとなり、また、各種行事では、地域住民の参加によって交流を図ることができました。
- (2) 地域の福祉教育に貢献するため、小中学生から社会人まで数多くの実習生を積極的に受け入れました。
- (3) 施設の様々な活動及び利用者の生活の様子をフェイスブック等で情報発信することにより、地域の方々に向けて施設への理解を深めていただくことができました。
- (4) 虐待等による緊急保護者の受入体制を拡充するため、2階の倉庫を居室となるよう整備しました。

平成29年度老人デイサービスセンター五条の里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 27.3名（前年度 28.5名）
- (2) 稼働率 91.0%（前年度 95.0%）
- (3) 平均介護度 2.28（前年度 2.33）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 208回（デイ夏祭り、運動会、作品展、ボランティア訪問等）
- (2) 食事関係 64回（バイキング、鉄板料理、お茶会等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 18回 延べ人数26名
- (2) 内部研修 11回（認知症研修、食中毒予防衛生講習会、介護技術等）
- (3) 各種会議・委員会 115回（デイサービス会議、業務改善会議、生活支援委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議では、利用者や家族が抱えている悩みや課題を把握しながらアドバイスをを行い、また、在宅での生活を聞き取りながら利用者又は家族のニーズの分析に努め、安心・安全なサービス提供に努めました。
- (2) 利用者が心身機能の維持及び向上を図り、在宅生活が継続できるよう、既存のプログラムであるペダル漕ぎや平行棒等に加えて、段差の昇降運動・つま先及び踵上げ運動を追加したことにより、長時間の歩行のために必要な身体的能力を高めることができました。
- (3) 送迎業務において、職員間でヒヤリマップ内の危険箇所を挙げることで、共通認識を持って事故を防ぐとともに、簡易的な日常点検をすることにより、車両の故障を防ぎながら安全に送迎することができました。
- (4) 日々の健康を管理するため、体調観察を徹底して行い、体調不良時には家族へ連絡して疾病の早期対応に努めました。また、インフルエンザなどの流行時期には注意喚起を行うとともに送迎時に体温測定をすることで、未然に蔓延を防ぐことができました。
- (5) 積極的に介護技術や感染予防、認知症等に関する内外研修に参加し、研修参加者がその内容をデイ会議で発表するよう努め、専門知識や技術習得についての浸透を深めました。
- (6) 食を五感で味わってもらうため、春にはふきのとうやつくし、秋には秋刀魚や松茸等、季節毎の食材をメインにした魅力あるバイキングを提供するよう努めました。また、日頃の、食形態や摂取量を家族に伝え、在宅での食事がスムーズになるよう支援しました。
- (7) 居宅介護支援事業所への訪問時に、担当利用者の日々の情報提供を細かく伝えることでケアマネジャーからの信頼を得ることができました。特に作品展では、参加ケアマネジャーと担当利用者が一緒に作品を作ったイベントが好感へつながり、このことも新規利用者獲得の要因となりました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域に根差した施設として、ボランティアの受け入れを積極的に行うことで、利用者の生活の中での楽しみの一つとなり、また、各種行事では、地域住民の参加によって交流を図ることができました。
- (2) 地域の福祉教育に貢献するため、小中学生から社会人まで数多くの実習生を積極的に受け入れました。
- (3) 施設の様々な活動及び利用者の生活の様子をフェイスブック等で情報発信することにより、地域の方々に向けて施設への理解を深めていただくことができました。
- (4) 地域の福祉の増進の担い手となるため、行政や関係機関に施設を利用していただくことで、さらなる協力関係を構築することができました。

平成29年度特別養護老人ホームあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.6名 | （前年度 78.5名） |
| (2) 稼働率 | 98.3% | （前年度 98.1%） |
| (3) 平均介護度 | 3.84 | （前年度 3.84） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 行事関係 | 24回 | （福祉カフェ、夏祭り、福祉教室等） |
| (2) 外出支援 | 11回 | （フルーツパーク、ショッピング、大相撲名古屋場所等） |
| (3) 食事関係 | 50回 | （バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 58回 | 延べ人数102名 |
| (2) 内部研修 | 10回 | （褥瘡予防、ターミナルケア、喀痰吸引等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 189回 | （事故防止委員会、感染対策委員会、ユニット会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 長年住み慣れた自宅で家族との時間を過ごしたいという入所者の希望に沿った外出企画や、果物が大好きな入所者の希望により企画したフルーツパークへの外出等、ケアプランを入所者の状態や希望に合わせて適宜更新し、入所者、家族本位のサービス提供を行いました。
- (2) 花見やショッピング、大相撲観覧等、入所者の希望に沿った外出行事や、運動会、ビアガーデン、節分等、季節に合った施設内行事を行う等、メリハリのある生活を送ることができるよう支援しました。
- (3) バイキング等の食事行事では、毎回入所者から、事前にアンケートで得た嗜好に合わせてメニューや、旬の食材を使用した季節感のあるメニューにする等、「食」を楽しんで頂けるように工夫しました。また、嚥下困難な入所者に対しても、味、見た目を普通食に近づけたなめらか食を提供することで、入所者の食に対する満足度向上につなげました。
- (4) 各種委員会・会議を定期的で開催し、業務内容や入所者処遇について適宜改善を図り、良質なサービス提供につなげることができました。
- (5) さまざまな内容の外部研修参加に加え、定期的に施設内研修を開催するなど、より多くの職員に学びの場を設ける事で、施設全体の介護力向上を図りました。
- (6) 近隣病院や地域の居宅介護支援事業所と連携し、在宅の入所待機者や、その状態について把握に努めました。また、次期入所者の選考については、定期的に開催している委員会において、常に複数名リストアップしておく事で、適切かつ迅速円滑な待機者の受け入れにつなげることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、日々の介護相談の他、毎月介護予防プログラム等の啓発イベントや介護についての座談会を行いました。毎回多くの地域住民参加して頂く事ができ、親しみのある相談しやすい施設づくりにつなげました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティアや各学校の学生、地域住民のご協力を得て、夏祭りを開催しました。各模擬店やお化け屋敷、今年度初の企画であるちびっこ消防隊、「巨大壁画の謎を解け」等を通じて、施設と地域の交流を図りました。
- (3) 地域で行われる桜まつりや納涼祭、小学校の運動会に参加し、地域住民と交流の機会をもつことで、入所者が地域住民の一員として社会参加することができました。
- (4) 介護実習生、栄養士実習生、職場体験生等を受け入れるとともに、また、師勝東小学校の児童に対して福祉教室を行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (5) 入所者の日常生活や施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民を始め、広く施設の取り組みを理解していただくよう努めました。

平成29年度あいせの里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 19.5名 | （前年度 19.8名） |
| (2) 稼働率 | 97.6% | （前年度 99.1%） |
| (3) 平均介護度 | 2.79 | （前年度 2.56） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 行事関係 | 29回 | （あじさい見学、福祉カフェ、夏祭り等） |
| (2) 食事関係 | 50回 | （バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 58回 | 延べ人数102名 |
| (2) 内部研修 | 10回 | （褥瘡予防、ターミナルケア、喀痰吸引等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 201回 | （ショートステイ委員会、感染対策委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ショートステイ委員会を開催し、利用者処遇について日々のモニタリングをもとに意見交換を行いました。利用上・生活上の課題に対し多職種で検討し、改善を図ることで良質なサービス提供に努めました。
- (2) 施設内行事の参加や、バラ園や美術館等、季節に合わせて地域各所への外出を実施しました。季節を感じることができる草花や、普段あまり目にすることのないアートに触れる機会等を設けることで、利用者同士の会話も弾み、笑顔で楽しく生活していただくことができました。
- (3) バイキング等の食事行事では、利用者から、事前にアンケートで得た嗜好に合わせたメニューや、旬の食材を使用した季節感のあるメニューにする等、「食」を楽しんで頂けるように工夫しました。また、嚥下困難な利用者に対しても、味、見た目を普通食に近づけたなめらか食を提供することで、利用者の食に対する満足度向上につなげました。
- (4) 機能訓練を希望される利用者に対して、ケアプランをもとに身体機能や生活環境に合わせたメニューを作成し実施することで、残存機能維持を図ることができました。
- (5) さまざまな内容の外部研修参加に加え、定期的に施設内研修を開催するなど、より多くの職員に学びの場を設ける事で、施設全体の介護力向上を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、日々の介護相談の他、毎月介護予防プログラム等の啓発イベントや介護についての座談会を行いました。毎回多くの地域住民参加して頂く事ができ、親しみのある相談しやすい施設づくりにつなげました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティアや各学校の学生、地域住民のご協力を得て、夏祭りを開催しました。各模擬店やお化け屋敷、今年度初の企画であるちびっこ消防隊、「巨大壁画の謎を解け」等を通じて、施設と地域の交流を図りました。
- (3) 地域で行われる桜まつりや納涼祭、小学校の運動会に参加し、地域住民と交流の機会をもつことで、利用者が地域住民の一員として社会参加することができました。
- (4) 介護実習生、栄養士実習生、職場体験生等を受け入れることで、また、師勝東小学校の児童に対しても福祉教室を行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (5) 利用者の日常生活や施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民を始め、広く施設の取り組みを理解していただくよう努めました。

平成29年度老人デイサービスセンターあいせの里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 26.4名 | （前年度 28.5名） |
| (2) 稼働率 | 88.0% | （前年度 94.9%） |
| (3) 平均介護度 | 2.15 | （前年度 2.31） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 63回 | （夏祭り、法人合同イベント、謝恩会） |
| (2) 食事関係 | 65回 | （パティシエによる実演、バイキング、実演調理等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 14回 | 延べ人数 14名 |
| (2) 内部研修 | 38回 | （施設内研修、考課者研修、リーダー研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 74回 | （デイサービス会議、感染対策委員会、運営連絡会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 認知症の進行を予防するために、グループに分かれて行う回想療法やカラオケ機器を使用した音楽療法を行いました。また、利用者のアイデアを取り入れた巨大壁画等の創作活動を実施し、利用者の活動意欲の向上に努めることができました。
- (2) ヒヤリハット報告書の内容を丁寧に集計したことで、様々な事例をその後の検証に活用し、事故防止につなげることができました。ヒヤリマップについては、職員が確認しやすい場所に掲示し、送迎時に事故に繋がる危険な場所等の周知徹底を図ることができました。
- (3) 定期的に利用者の機能訓練内容を、生活環境等のニーズに合わせて見直すことで、在宅生活の継続支援に努めました。また、昼食前に口腔体操を行い、昼食後に職員が利用者につき添い口腔ケアを行うことで口腔内の清潔保持及び機能維持に努めました。
- (4) 食事摂取状況の観察や、家族・ケアマネジャーからの聞き取りで得た自宅での食事摂取に関する情報を、各職種で共有し、利用者個々の嚥下・摂食状態にあわせた食事を提供することができました。おやつ作りでは多くの利用者が参加できるメニューを考案し、実施することができました。
- (5) 毎月実施するデイサービス会議の中で、普段のケア内容を見直したり、各職種が講師となって、研修内容の報告や実技指導を行うことで職員の知識・技術の向上を図ることができました。
- (6) 毎月初めに、居宅介護支援事業所を訪問し、利用者の些細な変化や家族からの要望等の情報交換を密に行うことができました。また、デイサービスにケアマネジャーを招待し、謝恩会やバイキング、夏祭り等の取り組みや利用者の様子について連携を図りました。
- (7) 災害時に迅速な避難誘導を行うことができるよう、火災、地震を想定しての避難訓練を行い、防災について職員の意識を高めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、日々の介護相談の他、毎月介護予防プログラム等の啓発イベントや介護についての座談会を行いました。3月には「出張デイサービス」というテーマで開催し、デイサービスの概要やあいせの里での取り組みを多くの地域住民に発信することができました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティアや各学校の学生、地域住民のご協力を得て、あいせの里夏祭り、デイサービス夏祭りを開催しました。各種催し物を通じて、施設と地域の交流を深めることができました。
- (3) 介護実習生、栄養士実習生、職場体験生等を受け入れるとともに、また、師勝東小学校の児童に対して福祉教室を行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (4) 利用者の様子や施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民を始め、広く施設の取り組みを理解していただくよう努めました。

平成29年度ケアハウスあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 29.3名（前年度 28.8名）
- (2) 稼働率 97.6%（前年度 95.9%）
- (3) 要介護者数 8名（前年度 7名）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 145回（誕生日会、夏祭り、干し柿作り等）
- (2) 外出支援 103回（食事外出、選挙投票、季節外出等）
- (3) 食事関係 35回（バイキング、モーニング、敬老祝御膳等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 4回 延べ人数 5名
- (2) 内部研修 4回（防災、感染予防、食中毒防止等）
- (3) 各種会議・委員会 66回（事故防止委員会、感染対策委員会、運営連絡会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者が必要な介護保険サービスを利用できるよう要介護認定申請を支援し、認定調査の立会いを行いました。また、サービス担当者会議への出席を通じて、入所者の日頃の様子や希望を発信することで、ニーズにあったサービスに繋げることができました。
- (2) 花見や初詣など季節にあった外出、日常生活に潤いをもたらす買い物、食事・喫茶外出や地域の納涼会などへ参加し、日常生活のマナー化を防ぐことに努めました。
- (3) 日々の楽しみを持ってもらえるよう誕生日会やボランティアによる演奏会、達成感を感じられるよう各種クラブを実施し、入所者の生活の質の向上に努めました。
- (4) 入所者の健康状態の把握のため、健康診断などの結果確認、定期バイタル測定、日常の体調確認を行いました。体調不良者には、病院受診に付添い、疾病等の早期発見に努めました。
- (5) 入所者の体調に合わせて、食事形態の変更や献立の一部を変更し食事を提供しました。また、旬の食材を使用したバイキング、敬老祝御膳、お楽しみ弁当等を実施し、普段とは違った雰囲気での食事を楽しんでいただくことができました。
- (6) 講師を専門家に依頼し、食に関すること、高齢者向けの運動、感染症予防、認知症予防をテーマに健康教室を開催することができました。合わせて、歯科衛生士による口腔ケア指導を行い、入所者の介護予防、身体機能維持向上への意識向上を図りました。
- (7) 地元消防団と連携して避難訓練を実施し、避難方法・経路の確認を行い防災意識の向上に努めました。また、非常時の避難経路確保のため、ベランダの定期点検、整理整頓を行いました。
- (8) 施設見学者や入所の問合せに対し、施設での生活が魅力的に感じられるよう入所の利便性や利用料の詳細について説明し、入所待機者の確保に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、日々の介護相談の他、毎月介護予防プログラム等の啓発イベントや介護についての座談会を行いました。ケアハウスからも多くの入所者が参加し、地域住民との交流を深めて頂く事ができました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティアや各学校の学生、地域住民のご協力を得て、夏祭りを開催しました。各模擬店やお化け屋敷、今年度初の企画であるちびっこ消防隊、「巨大壁画の謎を解け」等を通じて、施設と地域の交流を図りました。
- (3) 地域で行われる桜まつりや納涼祭、小学校の運動会に参加し、地域住民と交流の機会をもつことで、入所者が地域住民の一員として社会参加することができました。
- (4) 師勝東小学校の福祉教室において、入所者が昭和の玩具を使って児童とのふれあい活動に参加し、次世代を担う福祉人材の育成に一役買いました。
- (5) 入所者の日常生活や施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民を始め、広く多くの方に施設の取り組みを理解していただくよう努めました。

平成29年度特別養護老人ホームペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 97.7名（前年度 98.1名）
- (2) 稼働率 97.7%（前年度 98.2%）
- (3) 平均介護度 3.93（前年度 3.98）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 40回（夏祭り、運動会、しめ縄・餅つき、保育園児交流会等）
- (2) 外出支援 20回（周辺散歩、花見見学、アクア・トトぎふ等）
- (3) 食事関係 38回（モーニング、バイキング、季節行事食等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 52回 延べ人数92名
- (2) 内部研修 27回（権利擁護研修、リスクマネジメント、医療勉強会等）
- (3) 各種会議・委員会245回（調整会議、主任・副主任会議、ミールラウンド等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者や家族の要望を踏まえて各職種が連携して計画を作成し、入所者個々の生活リズムに合わせた介護支援を実施することができました。
- (2) 入所者本人の要望に沿った外出支援を積極的に実施しました。また、家族交流会では、家族間で大切にしている思い出の話や入所者の過去の話も聴くことができ、今後のケアにつながる情報や家族からの要望を得ることができました。
- (3) 摂食・嚥下障害のある入所者に対して、管理栄養士をはじめ、各職種が共同して食事の観察を行い、その人に合った食形態や姿勢、環境、口腔ケアなどについて検討し、経口維持の向上に努めました。
- (4) 日々の入所者の心身状態を観察し、早期の対応を行うことにより、入院者数および入院日数の減少につながりました。また、定期的に館内の環境整備や消毒を行い、感染予防に努めました。
- (5) 良質な福祉サービスを提供するため、積極的に内外の研修に参加し、学んだ内容については、会議の場で共有し知識の習得、向上に努めました。また、各チームで施設サービスの向上を目的に、研究発表を行い、代表者が県老人福祉施設大会で発表を行いました。
- (6) 食事前テーブル、低床ベッドの更新を行い、快適な住環境を確保しました。
- (7) 全事業所合同での避難訓練を実施し、地元消防団との合同訓練や救助の方法など実践を交えた訓練も行き、防災意識の高揚に努めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 認知症サポーター養成講座、地域の学校での福祉体験等の講師依頼を受け、職員が出向き福祉サービスに関する講座を行い、幅広い年代の方々に関心を持っていただくことができました。
- (2) 地下水を使用したライフライン設備を、施設見学者や福祉カフェ参加者等へ説明し、地域の災害拠点として役立てていただくための情報を発信することができました。
- (3) 夏祭りでは例年の催し物に加え、戦国演武やオープニングムービーなどの新たな企画に取り組むことができました。また、介護の日のつどいでは、感染症予防をテーマに講話・寸劇を行い、地域交流の機会を持つことができました。
- (4) 介護実習及び福祉体験を積極的に受け入れ、高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
- (5) 入所者家族や地域社会に、施設の活動内容に対する理解を深めていただくため、福祉会だよりやフェイスブックの更新を積極的に実施することができました。

平成29年度ペガサス春日短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 10.2名（前年度 10.4名）
- (2) 稼働率 101.7%（前年度 104.2%）
- (3) 平均介護度 3.11（前年度 3.01）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 40回（夏祭り、運動会、忘年会、保育園児交流会等）
- (2) 食事関係 38回（モーニング、バイキング、季節行事食等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 52回 延べ人数92名
- (2) 内部研修 27回（権利擁護研修、リスクマネジメント、医療勉強会等）
- (3) 各種会議・委員会 245回（調整会議、事故防止委員会、感染予防対策委員会）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議へ参加して、心身の状況だけに留まらず、利用者とその家族の生活状況の把握に努めました。会議内容の要点を絞って他職種へ伝達して、安心してサービスを利用していただきました。
- (2) 個々の利用者、季節に合わせたレクリエーションを実施するとともに、イベント開催時には、他事業所の利用者との交流も図り、楽しい時間を過ごせるように努めました。
- (3) 日々の利用者の心身状態を観察することにより、利用中の疾病の早期発見、早期受診に努めました。また、定期的に館内の環境整備や消毒を行い、感染予防対策を実施しました。
- (4) 食べる楽しみを持っていただくための工夫として、バイキングでは、季節に合った食材を使用して提供するなど、楽しく食事をしていただきました。
- (5) 良質な福祉サービスを提供するため、積極的に内外の研修に参加し、学んだ内容については、会議の場で共有し知識の習得、向上に努めました。また、各チームで施設サービスの向上を目的に、研究発表を行い、代表者が県老人福祉施設大会で発表を行いました。
- (6) 全事業所合同での避難訓練を実施し、地元消防団との合同訓練や救助の方法など実践を交えた訓練も行い、防災意識の高揚に努めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りでは例年の催し物に加え、戦国演武やオープニングムービーなどの新たな企画に取り組みことができました。また、介護の日のつどいでは、感染症予防をテーマに講話・寸劇を行い、地域交流の機会を持つことができました。
- (2) 介護実習及び福祉体験を積極的に受け入れ、高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
- (3) 他事業所を併用されている利用者のケア方法、状態確認を図るため、居宅介護支援事業所や他事業所と情報交換を行い、最適な方法で支援することができました。
- (4) フェイスブックを積極的に活用し、様々な行事情報や施設全体の取り組みを紹介することにより、利用者家族、地域住民、居宅介護支援事業所等に情報発信することができました。

平成29年度老人デイサービスセンターペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 27.1名（前年度 28.7名）
- (2) 稼働率 90.2%（前年度 95.8%）
- (3) 平均介護度 2.07（前年度 2.38）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 94回（法人合同行事、デイサービス文化祭、感謝祭等）
- (2) 食事関係 16回（バイキング、焼き芋、ウナギ祭り等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 13回 延べ人数13名
- (2) 内部研修 18回（嘔吐物処理勉強会、感染予防講習会、介護記録勉強会等）
- (3) 各種会議・委員会 43回（調整会議、デイサービス会議、事故防止委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 新規利用や更新時の担当者会議において、利用者及び家族の要望を聴き取り、デイサービス利用における目標の設定及び確認を行い、各々の目標や好みに合わせた個別レクリエーションに取り組んでいただくことができました。
- (2) 計算や漢字等の脳トレ問題を用意し、利用者の脳活性に資することができました。また、回想法の一環として回想法かるたや近隣市町村の昭和時代の写真集、カラオケ機材の脳トレクイズなどを活用し、認知症の進行予防に役立てることができました。
- (3) 利用者の身体状況、生活環境に応じた機能訓練メニューを継続的に取り組んでいただき、身体機能の維持・向上を図ることができました。個別または小集団での訓練メニューを新たに取り入れ、より効果的な訓練を行うことができました。また、開設時から使用していた特殊浴槽、テーブル・椅子の更新を行い、サービス環境の改善を行いました。
- (4) 今年度からの取り組みであるバーベキューでは、実施前に嗜好調査を実施して、利用者の希望に応じた食材を提供することができました。利用者及び家族へ嚥下状態に合わせた食事形態の重要性を伝え、見直すことにより安全な食事提供ができました。
- (5) 利用者の健康維持及び感染予防を図るため、口腔ケアや各種体操、来所時の手洗い・うがいの徹底に努め、疾病による長期休みを防ぐことができました。また、看護師によるテーマに沿った健康教室を開催することにより健康管理の理解促進に努めました。
- (6) 会議において新規利用者や既存利用者の対応方法について検討し、職員間での情報共有を図り、統一したサービス提供ができました。また、テーマごとに学習やグループディスカッションを行うことにより職員の知識、意欲向上を図ることができました。
- (7) お試し利用後や利用者状況に変化があった場合には居宅介護支援事業所と迅速な報連相を行い、信頼関係の構築に努め、年間30名の新規利用者を獲得することができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 多種多様な催し物披露のボランティア、傾聴や整容などの生活援助のボランティアを積極的に受け入れ、利用者との交流を行うことができました。
- (2) 各種実習及び福祉体験を積極的に受け入れ、デイサービスの概要を知っていただくとともに高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
- (3) 他事業所を併用されている利用者のケア方法、状態確認を図るため、居宅介護支援事業所や他事業所と情報交換を行い、最善な方法で支援することができました。
- (4) 月刊パンフレットやフェイスブックを積極的に活用し、様々な行事情報や施設全体の取り組みを紹介することにより、利用者家族、地域住民、居宅介護支援事業所等に情報発信することができました。

平成29年度グループホームペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員9名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 8.9名 | （前年度 8.7名） |
| (2) 稼働率 | 98.3% | （前年度 97.0%） |
| (3) 平均介護度 | 1.53 | （前年度 1.59） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 44回 | （夏祭り、介護の日、保育園児交流会等） |
| (2) 外出支援 | 9回 | （バラ花見、初詣、昼食外出等） |
| (3) 食事関係 | 44回 | （おやつ作り、おせち料理、なべ料理等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数11名 |
| (2) 内部研修 | 4回 | （接遇研修、認知症研修、権利擁護研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 51回 | （調整会議、グループホーム会議、運営推進会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 毎日の生活の中で、家事の工程を細分化し多くの入所者が関わることにより、家庭生活を実感できるよう支援することができました。入所者個々の現状をホーム会議で検討したのち、家族の意向も確認し処遇プランの見直しを図りました。また、介護度が進みホームでの生活が難しくなった入所者に対して、特養と調整し、入所を円滑に進めました。
- (2) 花見外出、初詣などで季節を感じていただくとともに外食を楽しむことができました。今年度も家族交流会を開催し、入所者の日頃の様子を知っていただき、家族と入所者の絆をさらに深めました。
- (3) 入所者には、毎日の日課として自室の清掃を組み込むことにより清潔を保ち、心身とも穏やかに生活することができました。
- (4) 良質な福祉サービスを提供するため、積極的に内外の研修に参加することができました。研修で学んだ内容は、会議の場で共有し知識の習得、向上に努めることができました。
- (5) 入所者の血圧・体温を毎日測定することにより、日常の様子を把握し、ホーム内での健康管理、疾病の早期発見に努めることができました。
- (6) 全事業所合同での避難訓練を実施し、地元消防団との合同訓練や救助の方法など実践を交えた訓練も行いました。また、ホーム独自で環境整備を行い、避難経路の安全確認をし、防災意識の高揚に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りでは例年の催し物に加え、戦国演武やオープニングムービーなどの新たな企画に取り組むことができました。また、介護の日のつどいでは、感染症予防をテーマに講話・寸劇を行い、地域交流の機会を持つことができました。
- (2) 介護実習及び福祉体験を積極的に受け入れ、高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
- (3) 福祉会だよりやフェイスブックを活用して活動状況を発信し、積極的に広報活動を行いました。また、各入所者家族に対してそれぞれかわら版を毎月発行し喜んでいただきました。
- (4) 運営推進会議を隔月毎に開催し、家族や地域の方々に事業活動の状況を伝えるとともに、運営に関するアドバイスをいただきました。

平成29年度ケアはうすペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 29.1名（前年度 28.3名）
- (2) 稼働率 96.9%（前年度 94.2%）
- (3) 要介護者 10名（前年度 10名）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 37回（夏祭り、運動会、しめ縄・餅つき等）
- (2) 外出支援 150回（ショッピング、昼食外出、黄葉まつり等）
- (3) 食事関係 34回（モーニング、バイキング、さんま祭り、鍋の日等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 14回 延べ人数16名
- (2) 内部研修 8回（権利擁護研修、嘔吐物処理勉強会、感染予防講習会等）
- (3) 各種会議・委員会 85回（調整会議、ケアはうす会議、衛生委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者の要望を取り入れた昼食外出や季節を感じられる四季折々の花木を鑑賞する外出などを積極的に企画、実施し、入所者が心身ともにリフレッシュし、充実した生活を送れるように支援することができました。また、ボランティア行事も多く企画実施することができました。
- (2) 入所者一人ひとりの身体状況や生活状況の把握に努め、変化があった場合には家族と情報交換を密に行うことにより、受診の依頼や介護サービス導入に向けての支援を行うことができました。
- (3) 毎月5つのクラブ活動を実施することにより、日常生活の充実につなげることができました。また、レクリエーションの時間では、身体全体を使った体操や指先を使った作品作りなど、幅広く実施することができました。
- (4) バイキングでは、季節を感じていただけるよう旬な食材を取り入れた食事の提供に努めることができました。四季折々のイベント食を実施し、食事の楽しさや大切さを感じていただける環境づくりに努めることができました。
- (5) 健康相談と歯科相談を行うことにより、入所者の健康状態の把握や日常の不安や悩みを相談できる環境づくりができました。また、感染症が蔓延しないよう委員会や研修に参加し、毎日の消毒や入所者への啓発等を行い、感染予防対策の徹底に努めることができました。
- (6) 良質な福祉サービスを提供するため、積極的に内外の研修に参加することができました。研修で学んだ内容は、会議の場で共有し知識の習得、向上に努めることができました。
- (7) 全事業所合同での避難訓練を実施し、地元消防団との合同訓練や救助の方法など実践を交えた訓練も行い、防災意識の高揚に努めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、定期的にイベントを開催し、多くの地域の方々に参加していただくことができ、地域福祉の推進に努めることができました。
- (2) 夏祭りでは例年の催し物に加え、戦国演武やオープニングムービーなどの新たな企画に取り組むことができました。また、介護の日のつどいでは、感染症予防をテーマに講話・寸劇を行い、地域交流の機会を持つことができました。
- (3) 入所者家族や地域社会に、施設の活動内容に対する理解を深めていただくため、福祉会だよりやフェイスブックの更新により活動内容を紹介し、効果的な広報活動を展開することができました。

平成29年度特別養護老人ホーム清洲の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.8名 | （前年度 78.9名） |
| (2) 稼働率 | 98.5% | （前年度 98.6%） |
| (3) 平均介護度 | 3.78 | （前年度 3.86） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 51回 | （夏祭り、保育園児来訪、家族交流会等） |
| (2) 外出関係 | 30回 | （ショッピング、喫茶外出、希望外出等） |
| (3) 食事関係 | 85回 | （バイキング、モーニング、ランチ会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|------------------------|
| (1) 外部研修 | 82回 | 延べ人数114名 |
| (2) 内部研修 | 52回 | （メンタルヘルスケア、感染症・食中毒予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 132回 | （リーダー会議、ユニット会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者本人の意向や要望を、定期的で開催するカンファレンスにおいて、ご家族の意見を踏まえて施設サービス計画に反映するとともに、ユニット会議などを通して職員へ周知しました。また、その計画に沿ったサービスについては、多職種が連携して提供することができました。
- (2) 入所者の健康状態について、職員が一体となり早期発見早期対応に努めることで、入院期間の減少につなげました。また、感染症対策については、委員会を中心にマニュアルを見直し、全職員に周知しました。さらに、看取り介護を希望する入所者に対しては、本人や家族の意向に沿った最期を迎えることができるように努めました。
- (3) 定期的にランチ会・バイキング・居酒屋・おやつ作りなどを開催し、普段とは違う雰囲気を入所者に食事を楽しんでもらいました。また、ミールラウンドでは、入所者の摂食・嚥下機能に沿った専門的な食事内容を提供できるように、検討を行いました。
- (4) 夏祭りや家族交流会では、入所者の家族や地域の方々に施設にお越しいただき、職員等との交流の場を設けることができました。さらに、外出支援として、西枇杷島祭りに参加し、入所者に昔懐かしいお祭り気分を感じていただきました。
- (5) 福祉サービスの向上を目指し、施設内研修を毎月実施しました。さらに、外部研修にも参加して、職員の知識や介護技術の向上に努めました。
- (6) 嘱託医や地域の病院と連携を図り、入所者が医療機関に入院した際には、入院期間が長期化しないように、早期退院のための受入れ体制を整えました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域住民に対する福祉の推進策として、介護の日には、施設の看取り介護をテーマとした講演会を開催し、ボランティアと地域住民の方々に参加していただきました。また、地域の方々が、施設を福祉の相談窓口として気軽に利用いただけるように福祉カフェを毎月2回定期開催しました。さらに、地域で開催するサロン等に看護師や福祉の専門職員を講師として派遣しました。
- (2) 介護福祉士や社会福祉士などの国家資格取得に向けた実習や、児童や生徒達の福祉教室や職場体験、ボランティア活動などを積極的に受け入れ、行政や教育機関と共同で福祉教育を推進することができました。
- (3) フェイスブックや清洲の里だよりを通じて、地域のボランティアなどが参加した施設行事や入所者の日常の活動状況を、広く世間に周知するように努めました。
- (4) 行政との連携を図り、地域の高齢者などのセーフティーネットの役割を担う施設として、その機能を活かせるようにしました。

平成29年度期清洲の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|--------------|
| (1) 平均利用者数 | 19.4名 | （前年度 20.2名） |
| (2) 稼働率 | 97.0% | （前年度 100.8%） |
| (3) 平均介護度 | 3.07 | （前年度 3.00） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 51回 | （夏祭り、保育園児来訪、家族交流会等） |
| (2) 食事関係 | 85回 | （バイキング、モーニング、ランチ会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|------------------------|
| (1) 外部研修 | 82回 | 延べ人数114名 |
| (2) 内部研修 | 52回 | （メンタルヘルスケア、感染症・食中毒予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 132回 | （リーダー会議、ユニット会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者本人や家族との面接時の調査票や担当者会議で得た情報をもとに、サービス計画を作成して、職員間で情報を共有することで、利用者の意向に沿ったサービスの提供に努めました。さらに、レクリエーションについては、利用者本人や家族の希望を踏まえて、日々の生活の中に取り入れて実施し、サービスの質の向上に努めました。
- (2) ノロウイルス、疥癬、結核などの感染症の発生時に、随時対策委員会を設けて、早期感染症の収束に努めました。また、感染症の再発防止に向けた職員への研修会を行いました。
- (3) 利用者には、ランチ会・バイキング・居酒屋などの行事開催時に、特養の入所者と一緒に参加してもらい、普段とは違う雰囲気の中で食事を楽しんでもらいました。また、利用者や職員と一緒におやつ作りを行うなど、より家庭的な雰囲気の中で利用していただけるようなサービス提供にも配慮しました。
- (4) 夏祭りや家族交流会では、利用者の家族や地域の方々には施設にお越しいただき、職員等との交流の場を設けることができました。さらに、外出支援として、西枇杷島祭りに参加し、利用者には昔懐かしいお祭り気分を感じていただきました。
- (5) 福祉サービスの向上を目指し、施設内研修を毎月実施しました。さらに、外部研修にも参加して、職員の知識や介護技術の向上に努めました。
- (6) 居宅支援事業所との連携を図ることで、利用者への福祉サービスの提供内容をより良いものにするように努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域住民に対する福祉の推進策として、介護の日には、施設の看取り介護をテーマとした講演会を開催し、ボランティアと地域住民の方々に参加していただきました。また、地域の方々も、施設を福祉の相談窓口として気軽に利用いただけるように福祉カフェを毎月2回定期開催しました。さらに、地域で開催するサロン等に看護師や福祉の専門職員を講師として派遣しました。
- (2) 介護福祉士や社会福祉士などの国家資格取得に向けた実習や、児童や生徒達の福祉教室や職場体験、ボランティア活動などを積極的に受け入れ、行政や教育機関と共同で福祉教育を推進することができました。
- (3) フェイスブックや清洲の里だよりを通じて、地域のボランティアなどが参加した施設行事や入所者の日常の活動状況を、広く世間に周知するように努めました。
- (4) 行政との連携を図り、地域の高齢者などのセーフティーネットの役割を担う施設として、その機能を活かせるようにしました。

平成29年度特別養護老人ホーム平安の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員96名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 93.9名（前年度 93.8名）
 - (2) 稼働率 97.9%（前年度 97.7%）
 - (3) 平均介護度 3.84（前年度 3.84）
- 2 地域交流事業
 - (1) 行事関係 103回（ユニット内行事、夏祭り、餅つき等）
 - (2) 外出支援 71回（喫茶こもれび、桜花見、ナゴヤドーム野球観戦等）
 - (3) 食事関係 71回（うなぎ、流しそうめん、ビアガーデン等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 31回 延べ人数 44名
 - (2) 内部研修 12回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
 - (3) 各種会議・委員会 172回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 居室担当者が中心となり、入所者のケアの見直しを行い、改善点をユニット会議で取り上げてケアプランの変更等を図り、充実した生活が送れるよう取り組みました。
 - (2) 外出支援では、本人の希望を取り入れながら、昔行きつけの喫茶店へ出かけ、また、絵画に興味のある入所者には愛知県美術館で開催された大エルミタール美術館展へ外出することができました。また、施設内では、おやつ作り、誕生日会等、日々の生活が楽しく過ごせる行事を開催することができました。
 - (3) 新規入所の際に家族から在宅生活での習慣、趣味、嗜好等を聞き取り、入所後も、自宅での生活ができるだけ継続できるように取り組むことができました。また、使用していた家具や物品を持ちこんでいただき、なじみのある生活を送れるよう努めました。
 - (4) 歯科衛生士と連携し、歯の磨き方や口腔ケア用品の見直しを入所者一人ひとり行い、口腔内を清潔に保つことで、できるだけ長く口からの食事を楽しんでいただけるよう支援しました。
 - (5) 事故防止では、事故報告書やヒヤリハット報告書の統計を行い、事故の予防対策に努めました。また、感染予防では、嘔吐処理方法のマニュアルの見直しを行い、感染症の予防に努めました。
 - (6) 外部研修へ参加した職員が研修で学んだことを委員会で報告することで、施設全体に伝わり、参加した職員だけでなく、職員一人ひとりが知識や技術を高めることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 介護福祉士実習、社会福祉士実習、管理栄養士実習、作業療法士実習の受入れを行い、次世代を担う職員の育成に努めました。また、西春日井地区初任者研修、高等学校10年経験者研修、中学校の職場体験を受入れ、福祉施設の理解促進にも努めました。
 - (2) 5月には、入所者とともに地域の530運動に参加し、地域のお祭りでは、尾張西枇杷島まつりや清洲城信長まつりに参加して、交流の場を設けることができました。また、夏祭りや介護の日では多くの地域の方々に参加していただき、入所者や地域の方々の情報交換の場を設けることができました。
 - (3) ボランティア活動終了後には喫茶コーナーを活用していただき、ボランティアと職員がコミュニケーションを図り、問題点を聞きだし改善することで今後もボランティア活動を継続していただけるよう努めました。
 - (4) 各ユニットのパソコンからでもフェイスブックを掲載できるように設定し、施設全体の行事だけでなく、ユニットごとの行事も掲載しやすくしたことで、より多くフェイスブックを掲載することができました。

平成29年度平安の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 29.6名（前年度 29.8名）
 - (2) 稼働率 98.9%（前年度 99.4%）
 - (3) 平均介護度 3.00（前年度 3.06）
- 2 地域交流事業
 - (1) 行事関係 31回（ユニット内行事、運動会、新年会等）
 - (2) 食事関係 10回（松華堂弁当、流しそうめん、すいか割り等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 31回 延べ人数 44名
 - (2) 内部研修 12回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
 - (3) 各種会議・委員会 172回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 春には桜の花見、夏には地域の祭り、秋には運動会やハロウィンパーティー、冬には忘年会や新年会等、利用中に四季の移り変わりが感じられるように取り組むことができました。
 - (2) 家族交流会では、日々の介護の取組の紹介や家族、ケアマネジャーとの情報交換を行い、連携を強化して利用者の継続利用に努めることができました。
 - (3) 毎月行っている昼食バイキングでは、旬の食材を使用して四季の移り変わりを感じていただきました。また、いつもと違う雰囲気ですごい食事を召し上がっていただくため、器や盛付を工夫した松華堂弁当を提供し、食事を通じて楽しんでいただくことができました。
 - (4) 事故が発生した際には、事故報告書を基に事故防止委員会が中心となって検討を行い、同じ事故が起こらないように取り組みました。また、事故を未然に防ぐ取組としてヒヤリハット報告書も委員会で検討または対策を行い、事故の減少に努めました。
 - (5) 家族や本人からの要望等を多く取り入れるために、アセスメント時に生活相談員だけでなく、介護職員や看護職員も同行し、広い視野で情報収集に努めました。
 - (6) 稼働率向上については、空床状況やキャンセル待ちがどの職員がみてもわかりやすい表を作成したことで、ケアマネジャーからの問い合わせに迅速に対応できる体制を整え、新規獲得に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 介護福祉士実習、社会福祉士実習、管理栄養士実習、作業療法士実習の受入れを行い、次世代を担う職員の育成に努めました。また、西春日井地区初任者研修、高等学校10年経験者研修、中学校の職場体験を受入れ、福祉施設の理解促進にも努めました。
 - (2) 5月には地域の530運動に参加し、地域のお祭りでは、尾張西枇杷島まつりに参加して、交流の場を設けることができました。また、夏祭りや介護の日では多くの地域の方々に参加していただき、利用者や地域の方々の情報交換の場を設けることができました。
 - (3) ボランティア活動終了後には喫茶コーナーを活用していただき、ボランティアと職員がコミュニケーションを図り、問題点を聞きだし改善することで今後もボランティア活動を継続していただけるよう努めました。
 - (4) 各ユニットのパソコンからでもフェイスブックを掲載できるように設定し、施設全体の行事だけでなく、ユニットごとの行事も掲載しやすくしたことで、より多くフェイスブックを掲載することができました。

平成29年度老人デイサービスセンター平安の里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 26.4名（前年度 27.6名）
- (2) 稼働率 88.0%（前年度 92.0%）
- (3) 平均介護度 1.83（前年度 1.90）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 72回（快宴隊訪問、保育園児訪問、新川折り紙会等）
- (2) 食事関係 36回（昼食バイキング、出張回転寿司、おやつバイキング等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 17回 延べ人数12名
- (2) 内部研修 5回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 69回（デイサービス会議、運営連絡会議、衛生委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 居宅サービス計画書、通所介護計画書、担当者会議議事録を各職員が確認し、情報を共有してサービスの統一を図りながら、目標に対してモニタリングを行いサービス向上に努めました。
- (2) 自立支援の研修に参加して研修報告書にて周知させることによって、実際に導入し、在宅生活を維持することができました。また、利用時に、看護師による機能訓練を実施し筋力低下防止に努めました。
- (3) 大型行事開催に向けてゲーム用品、壁画、景品等を作成し、レクリエーション参加への意欲向上や利用者間のコミュニケーションの場を提供することができました。そして、完成品を使用することでレクリエーションに対する活気となり、心身機能の活性に繋がりました。
- (4) 毎月、ヒヤリハット報告書の集計と分析を行い、その都度、検討会を実施して事故の防止に努めました。
- (5) 担当者会議に参加してサービスの内容や本人、家族の意向を確認しながら職員間で情報共有を行い、更なる利用に繋がるよう努めました。
- (6) 定期的に居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを訪問して利用者の情報や、空き状況の提供に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 介護福祉士実習、社会福祉士実習、職場体験、保育園児の訪問等を受け入れ、福祉施設の職員としての役割、仕事のやりがい、福祉への理解を伝えながら、利用者とのコミュニケーションを行うことで福祉の楽しみを引き出すきっかけを作ることができました。
- (2) 福祉会だよりに出張回転寿司の様子を伝え、それをご覧になられた家族から喜びの言葉をいただき、デイサービスの活動を知っていただく機会になりました。
- (3) ボランティア訪問時に次回の訪問日程調整や、事前の打ち合わせも行い、当日、ボランティア活動がスムーズに実施できるように努めました。
- (4) 地域包括支援センターの研修に参加し清須市介護予防・日常生活支援総合事業について理解を深め、また、他事業所との交流を図ることもできました。

平成29年度西春日井福祉会居宅介護支援事業所事業報告書

事業運営

1 ケアプラン作成状況

(1) 作成件数	2, 562件	(前年度	2, 611件)
予防委託件数	690件	(前年度	598件)
(月平均)	271件	(前年度	267件)
(2) 平均介護度	2.12	(前年度	2.09)

2 相談受付状況

(1) 全体	161件	(前年度	57件)
(2) 地区別			
ア清須市	81件	(前年度	34件)
イ北名古屋市	73件	(前年度	22件)
ウ豊山町	3件	(前年度	0件)
エその他	4件	(前年度	1件)
(3) 電話相談受付件数	2, 744件	(前年度	未集計)

3 新規契約・契約終了件数

(1) 新規契約件数	129件	(前年度	48件)
(2) 契約終了件数	73件	(前年度	72件)

4 認定調査委託請求件数

213件	(前年度	205件)
------	------	-------

5 職員研修

(1) 外部研修	78回	(延べ人数	91人)
(2) 内部研修	52回	(月例会議12回、定期会議40回)	
(3) 各種会議	36回	(チーム会議)	

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者の自己決定を尊重したケアプランを作成し、在宅において自立した日常生活が送れるよう支援をするとともに、利用者の尊厳保持に努めました。
- (2) 要介護者を抱えたご家族等が、介護で疲弊しないよう定期の自宅訪問以外にも家庭訪問、様々な生活上の不安の解消のための電話相談など行い、緊急の場合は、当法人の相談員と連携を図りサービス提供を行いました。また29年度から導入したチーム会議において情報共有したケースについて担当不在でも訪問相談等、適時対応することができました。
- (3) 管内市町の制度に基づいたサービスや、家族、近隣およびボランティア等の様々なサービスの情報を入手し、利用者の抱える困難な問題解決のために情報提供等の支援をしました。
- (4) 総合事業が本格的に始まったため各市町の地域包括と連携し、予防の委託件数を増やし積極的に困難ケースも受け入れました。
- (5) 事業所内のセルフチェック及び介護支援専門員のサービス自己評価を行い、自分の目標達成度を再確認し、資質の向上のための勉強会を行いました。
- (6) 業務遂行に必要な知識や技術の向上のため研修計画を作成し、テーマに沿った外部研修に各々参加し、自己研鑽に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 行政機関や地域包括支援センターと地域ケア会議や介護保険認定調査、介護予防プランを積極的に受託し連携を図りました。サービス事業者と毎月の訪問、サービス担当者会議等を通じて、相互の理解向上に努めました。
- (2) 法人の各特別養護老人ホームのイベントに参加し、地域住民の方へ居宅介護支援事業所の業務についてアピール活動をしました。

平成29年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（施設入所）事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員50名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 48.5名（前年度 48.3名）
- (2) 稼働率 97.0%（前年度 96.7%）
- (3) 平均障害支援区分 5.08（前年度 5.10）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 85回（夏祭り、10周年記念祭、クリスマス会等）
- (2) 外出支援 380回（合同外出、ユニット別外出・喫茶等）
- (3) 食事関係 90回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 31回 延べ人数54名
- (2) 内部研修 30回（新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等）
- (3) 各種会議・委員会 358回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 人権委員会を設置し、全職員を対象に人権についての研修会を実施するとともに適切な呼称の使用や丁寧な対応の徹底を図りました。
- (2) 合同外出事前会議を実施し、一人ひとりの希望に応じた一泊旅行や外出を行うことができました。また、希望に応じて個人契約のヘルパーやレスパイトケア等の法定外サービスを利用し、余暇の充実に努めました。
- (3) 利用者の健康維持増進のため健康委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の健康に対する意識の向上を図りました。日常的に環境清掃や消毒等を徹底し、吐物処理の研修を実施することで、感染症の集団感染を防ぐことができました。
- (4) 安心安全な環境づくりのため防災・環境委員会を設置し、環境整備や設備の点検、補修を実施しました。また、水害を想定した避難訓練や不審者侵入に備え防犯訓練を実施しました。
- (5) 楽しみのある豊かな食生活を送るため、ご当地メニューや季節メニューを取り入れるなど、献立を工夫することで、食に対する興味関心が高まりました。
- (6) 職員の支援力向上を図るために、外部研修へ計画的な職員派遣や、新人及び経験・階層別、テーマ別の内部研修を実施しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域の理解と支援に感謝し、交流を深めるため、「10周年記念祭」や「10周年記念講演会」を開催するとともに、10周年記念誌を発行しました。
- (2) 朝のラジオ体操等に参加し、地域の人と関わりを深めることができました。
- (3) 地域の施設理解を進めるために、施設広報誌杜のたよりやユニット通信、フェイスブック等を様々な視点で作成し、積極的に発信しました。
- (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習やボランティア活動を受け入れました。夏休みに福祉体験教室を開催し、地域の小学生が参加し、陶芸やビーズづくり、利用者との会話などで交流を深めました。また、障害者週間には、福祉映画の上映会や作品の展示販売等を行い、地域の方が障害を理解する機会を作りました。
- (5) 定期的な演芸ボランティアの来所の他、園芸や手芸など日常的な活動に個人ボランティアが多く参加されました。3月にボランティア交流会を開催し、感謝の気持ちを伝えるとともにボランティアの方から意見を聞く機会となりました。
- (6) 障害への理解を深めるとともに交流の場として、西春日井地域福祉の店やみずとぴあ庄内朝市へ出店し、地域の方々の好評を得ることができました。改修した喫茶ギャラリーこもれびに情報コーナーを設置し、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報も発信しました。

平成29年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（短期入所）事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員10名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 7.8名（前年度 7.6名）
- (2) 稼働率 77.8%（前年度 76.1%）
- (3) 平均障害支援区分 4.16（前年度 3.84）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 85回（夏祭り、10周年記念祭、クリスマス会等）
- (2) 外出支援 380回（合同外出、ユニット別外出・喫茶等）
- (3) 食事関係 90回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 31回 延べ人数54名
- (2) 内部研修 30回（新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等）
- (3) 各種会議・委員会 358回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 家庭を離れる不安を軽減するために、できるだけ同じユニットや居室を用意し、一人ひとりに合った生活環境の提供に努めました。新規利用者の契約や緊急入所に対応し、稼働率を達成することができました。
- (2) 入所中の日中活動の事業所を、希望に応じて自由に選択する利用者が増加し、安心して生活を送ることができるようになりました。また、ユニットで楽しく生活を送るため、朝のラジオ体操への参加や喫茶こもれびの利用等、余暇の充実を図りました。
- (3) 相談支援センターと連携し、サービスを必要としている地域の人に情報を届けることで、新規の利用者が増えました。また、短期入所中の利用者が日中に他事業所を利用することで、地域関係者との繋がりも深まりました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 家族の突然の死去や病気、虐待等の緊急利用は優先して受入れ、本人の不安や家族の負担の軽減に努めました。家族が高齢化しているケースが増加し、ますます関係機関との連携が必要となっています。
- (2) 懸案ケースは、相談支援センターや市町福祉課、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、個別支援会議（サービス担当者会議）等に参加することで、利用者が安心して地域で生活できるよう努めました。しかし、緊急で受け入れた短期入所利用者の利用が長期になったため、他の利用希望にお応えできないことがありました。
また、行動障害を有する利用者のため、短期用居室の一部を安全に利用できるように改修しました。しかし、時々職員への他害行為があり、複数の職員配置で対応せざるを得ない状況が続いています。

平成29年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（生活介護）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 66.4名（前年度 66.5名）
 - (2) 稼働率 97.6%（前年度 97.9%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.99（前年度 5.00）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 85回（夏祭り、10周年記念祭、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 380回（合同外出、ユニット別外出・喫茶等）
 - (3) 食事関係 90回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 31回 延べ人数54名
 - (2) 内部研修 30回（新人研修、全体研修、支援研修、嘱託研修等）
 - (3) 各種会議・委員会 358回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規利用や利用回数増の希望に応じるため、効率的な利用調整に努めました。しかし、身障部門利用者が新施設への入所などで退所し、その後の補充ができず、稼働目標を達成できませんでした。
 - (2) 個別支援計画に基づき、個別支援の充実を図りました。また、相談支援センターや他事業所との担当者会議に出席し、利用者の理解や個別支援の充実を図りました。
 - (3) 喫茶ギャラリーこもれびでの活動に利用者5名が参加しました。花壇の水やりや窓拭き等の接客以外の活動に対して、来店者から「きれいな花が咲いたね」「いつもきれいだね」とほめてもらうなど、交流が広がりました。
 - (4) 社会参加を進めるため、近隣への外出や買い物に積極的に出かけました。活動意欲を高めるため、利用者自身が活動材料の購入に出かけました。作品のアイデアを思い浮かべる機会ともなりました。納品を手伝うことで、作業の達成感を感じることもできました。また、障害の重いグループは、庄内緑地公園や清須城などに出かけ、気分転換を図りました。
 - (5) 職員の支援力向上を図るために、外部研修へ計画的な職員派遣や、新人及び経験・階層別、テーマ別の内部研修を実施しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域の理解と支援に感謝し、交流を深めるため、「10周年記念祭」や「10周年記念講演会」を開催するとともに、10周年記念誌を発行しました。
 - (2) 朝のラジオ体操等に参加し、地域の人と関わりを深めることができました。
 - (3) 地域の施設理解を進めるために、施設広報誌杜のたよりやユニット通信、フェイスブック等を様々な視点で作成し、積極的に発信しました。
 - (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習やボランティア活動を受け入れました。夏休みに福祉体験教室を開催し、地域の小学生が参加し、陶芸やビーズづくり、利用者との会話などで交流を深めました。また、障害者週間には、福祉映画の上映会や作品の展示販売等を行い、地域の方が障害を理解する機会を作りました。
 - (5) 定期的な演芸ボランティアの来所の他、園芸や手芸など日常的な活動に個人ボランティアが多く参加されました。3月にボランティア交流会を開催し、感謝の気持ちを伝えるとともにボランティアの方から意見を聞く機会となりました。
 - (6) 障害への理解を深めるとともに交流の場として、西春日井地域福祉の店やみずとぴあ庄内朝市へ出店し、地域の方々の好評を得ることができました。改修した喫茶ギャラリーこもれびに情報コーナーを設置し、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報も発信しました。

平成29年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（地域活動支援センター）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 0.13名（前年度 0.18名）
 - (2) 稼働率 0.7%（前年度 0.9%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 外出や入浴支援、園芸活動など、本人の満足できる活動を提供しました。平日利用の通所者の欠席が多く、稼働率は前年度を下回りました。
 - (2) 離職者等の支援については、対象者がありませんでした。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 生活介護を利用できない人を対象に、本人にニーズに沿った活動の場を提供し、生活に潤いと楽しみを持っていただくことができました。
 - (2) 通所が途絶えがちな利用者に対して、相談支援センターと連携し、定期的に利用できるように支援を行いましたが、安定した利用とはなりませんでした。

平成29年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（日中一時支援）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 3.6名（前年度 4.2名）
 - (2) 稼働率 71.0%（前年度 84.9%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 一時的な見守りだけでなく、外出支援や創作活動等の余暇活動を行い、生活意欲の向上を図りました。日中一時支援から生活介護へ利用変更となった利用者がいたため、稼働率が下がりました。
 - (2) 長期休暇の春休み、夏休み、冬休み期間中、ひきこもりがちな在宅障害児の日中活動の場所を日中一時支援事業で提供し、地域生活の充実を図り好評を得ました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 平日他事業所を利用している人を土曜日に一時的に受け入れ、家族の介護負担の軽減を図ることができました。
 - (2) 家族の入院による介護者の不在や家族負担の軽減のため、短期入所利用者に日中一時支援を合わせて提供しました。

平成29年度相談支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

(1) ケアプラン	9件	(前年度	6件)
(2) 障害支援区分認定調査	19件	(前年度	18件)
(3) 電話相談	596件	(前年度	659件)
(4) 来所相談	417件	(前年度	401件)
(5) 訪問相談	343件	(前年度	389件)
(6) 計画相談	187件	(前年度	194件)
総計	1,571件	(前年度	1,667件)

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の立場に立って、公正中立な相談支援を行うよう努め、充実した生活を送ることができるよう支援しました。市町福祉課と連携し、サービス等利用計画を作成し、モニタリング等で検証しました。また、市町委託の基本相談として日常的な困りごとの相談を受け、見守りをし、地域での生活の安定につなげることができました。
- (2) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として、運営会議や交流会・日中系事業所部会・訪問系事業所部会を開催し、地域関係者の連携を深めることができました。また、尾張中部福祉圏域障害者支援協議会相談支援部会に参加し、情報交換やテーマを決めて関係機関の方を講師に招いての勉強会を行い、他事業所との連携を深めるとともに、相談支援専門員の力量向上を図ることができました。
「障害者支援を考えよう勉強会」を開催し、地域関係者の障害の理解を図るとともに、連携を深める場となり、相談支援体制の強化に繋げることができました。
- (3) 愛知県障害者相談支援体制整備事業を受託し、地域アドバイザーとして、関係機関の会議等で助言し、圏域の障害者支援協議会の活性化及び相談支援体制の充実を図ることができました。
- (4) 地域の親グループ活動に参加し、助言を行うと共に、圏域の障害児者を持つ親の交流会を他の相談支援事業所の協力を得て実施し、親グループ活動の活性化を図ることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域交流の場として交流ホールや多目的室を、障害児者親グループや地域住民の活動に利用していただき、交流の場を提供することができました。
- (2) 障害者情報を発信するため、情報紙「杜の風だより」と支援協議会だより「地域の風・絆」を毎月発行し、地域関係者に配布し、地域の状況や新しい情報を得ることができたと好評でした。
- (3) 西春日井地域福祉の店で情報紙を置いたり、ボランティア募集のポスターを掲示しました。また、改修した喫茶ギャラリーこもれびにも情報コーナーを設置し、地域の障害福祉に関する情報を発信しました。

平成29年度訪問介護支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 180名（前年度 200名）
- (2) 延利用時間 1,094.8時間（前年度 1,145.5時間）

○行動援護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 87名（前年度 84名）
- (2) 延利用時間 567.5時間（前年度 627.5時間）

○重度訪問介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 30名（前年度 36名）
- (2) 延利用時間 449.0時間（前年度 453.5時間）

○移動支援事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 656名（前年度 665名）
- (2) 延利用時間 6,270.0時間（前年度 6,214.0時間）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意向を聴取し、了解を得ながら、ニーズに即した計画を作成しました。
- (2) 年度途中に女性ヘルパーが1名体調不良のため退職しました。男性利用者が多いため、男性ヘルパーの確保に努めましたが、新規の採用はなく、十分に要望に応えられませんでした。
- (3) 利用者や家族から、サービスについて直接聞き取り調査を行い、満足度を把握し、より良い支援となるよう努め、利用者の希望に沿う支援ができました。圏域の相談支援事業所からの期間を限定した依頼にも積極的に対応しました。
- (4) ヘルパー会議や地域部門会議でケース検討を行ったり、所内のインシデント研修や行動観察研修に参加し、ヘルパーのスキルアップを図りました。また、障害者支援を考えよう勉強会に参加し、障害の理解を深めました。また、障害者支援協議会の訪問系事業所部会に参加し、他の事業所と交流を図ると共にスキルアップを図りました。
- (5) ヘルパー業務に支障のない範囲で、サービス担当者会議に出席し、相談支援事業所及び地域関係者との連携を図ることができました。また、懸案事例については関係機関と密に連絡調整を行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉の杜広報誌「杜のたより」に居宅介護事業の内容紹介の記事を掲載し、情報を発信しました。